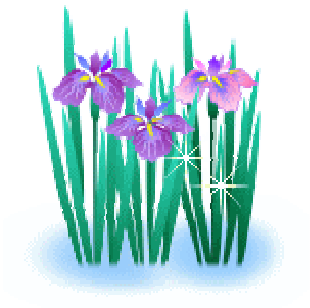
西新潟中央病院

# NST　NEWS　第１９号

NST：Nutrition　Support　Team

発行日：2015年5月26日
担　当：NST委員会
編　集：栄養管理室
連絡先：内線 1303

## NSTミニレクチャー　第 11 回　血清アルブミン値の低下の意義
## ～アルブミンは栄養評価の指標として適切？～



月に１度の栄養の勉強、ＮＳＴミニレクチャーのコーナーです。
第 11 回はアルブミンについてです。

**Q. アルブミン値が低ければ低栄養で、高ければ栄養状態がいい？**

**A. 必ずしもそうとは言えません。**

我が国では血清アルブミンあるいは rapid turnover protein が栄養状態を評価する方法として用いられていますが、全ての検査値は栄養不良に特異的ではなく、他の病態によっても変化します。アルブミン値は炎症や代謝亢進などの際に大きく低下し、逆に上昇する時は脱水があることが多いと言われています。

※血清アルブミン値が低下する病態を表１に示します。

**Q. アルブミンに影響を与える要因は？**

**A. 疾患、栄養不良、炎症、肝機能など様々な要因があります。**

血清アルブミンの半減期は 20 日前後と比較的長期の変化を示し、血管外のプールも大きいことが知られています。また、アルブミンの合成は栄養素以外にも、肝臓の合成能、漏出、感染、炎症などにより影響されます。特に入院患者で問題になるのはサイトカインの影響です。IL-1、IL-6、TNF-αなど、炎症性サイトカインは CRP などの急性期蛋白の合成を促進し、同時にアルブミンの合成を抑制し、分解を促進させます。また血管内皮細胞の透過性を高め、アルブミンの血管外への移行を促進させます。このために栄養状態に関係なく、炎症があると急激にアルブミン値が低下します。またプレアルブミンなど、他の rapid turnover protein も炎症の際には同様な動きをします。アルブミンを栄養指標に使用する場合は CRP を同時に測定し、疾患による影響を考慮する必要があると言えます。

表１　アルブミンが低下する病態

- 肝疾患
- 吸収不良症候群（クローン病など）
- タンパク漏出性胃腸症
- ネフローゼ症候群
- 栄養不良
- 炎症（急性および慢性）
- 代謝亢進（異化状態）
- 熱傷（広範）　など

最後に、健康者においてはアルブミンは低栄養の指標として感度は比較的高いのですが、特異ではありません。

また種々の疾患で低下することより、疾患を有する例では栄養評価の指標としてはあまり向かないことになりますので、基礎疾患等を考慮し総合的に判断する事が重要です。

（文責：臨床検査科　山本直樹）